すゑはむ花

若紫 并

哥を名とせり

[v. 6]

PL788
.4
.G4
1654
vol. 6
copy 1
Asian
Japan
Case

LIBRARY OF CONGRESS

2004551302

源氏十七ヶより十八ヶの表まで 源心

思へどもたすを何ぞりしタがれの家をそれし、
程(かど)の心ち。やうし月かれどおぼしますれず。こくを
りしこもうちとけぬりぶりのりしきぶ。心ゆるき
りるの仇いどましさま。けぢかくなりしりし
いそれまぐ家地なう恋(こひ)しくおぼしまふ。いうぐる
しとくしき兄(おが)ハなく。いとらうさげなるん人の。
つくましきことなるしんこいをそしがれと。こり
ずまるおぼしわれば。すこしゆへづきて男(きこ)ゆり
わたりハ。仇こくとまりまるぬ人海なるまさて。さて
もやとおぼしよりぐりのけるひあるあたりま
しそハひとくぐりをもほのめしまふめなり。

十五ツ六十八

なびなこそしずもそくなれるハおさくあ
まじこさぞいとめなれるやつれなるう心づかさハ
ことしへなるう情(なさけ)をくるくまめやうさなど。あまり
もれくほどしらぬやうにさてしもすぐしそてず。
名(なごり)なくくげをれてなをくしきうにまさぶまり
などするもあれバのなひさしつるもおほうりげ
かれ蛍(うつせみ)を。ものくおりくにはしこうおぼしいげ。
蕨(かき)の葉(よ)もさりぬべき風のるよりあるときハおどろ
かしなふおりもあるべしかかげのうごれたりし
さ夜ハまるさやうにてもこまほしくおぼす。大りる
名(なごり)なまさ地ひすれをぞえし給ハざりける。左(さひん)衛の

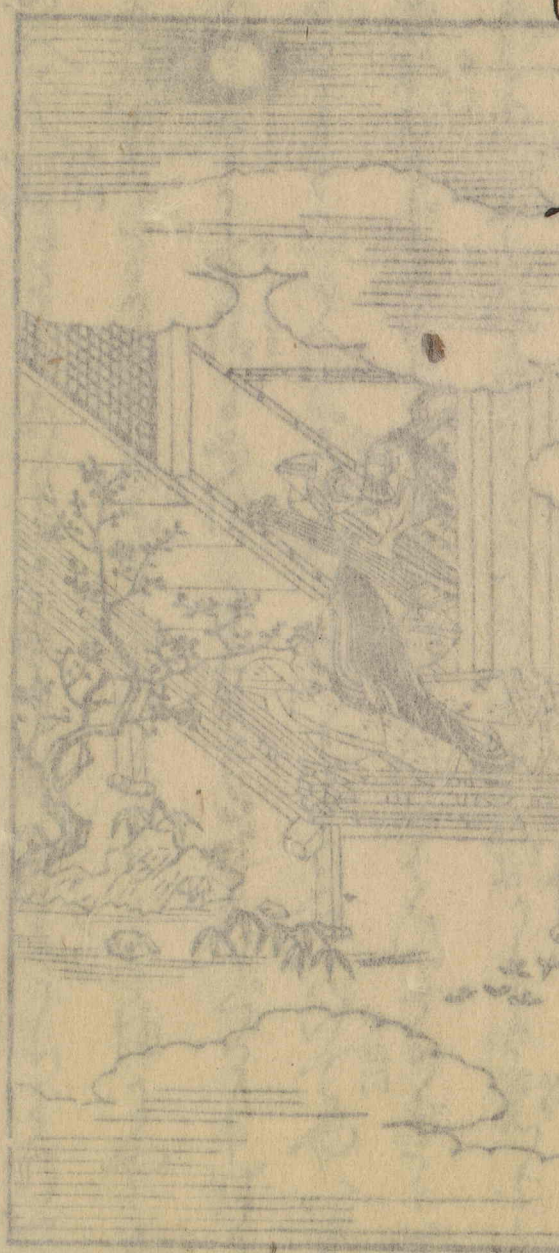
めれとて。犬貳のあまれさしつぎまおぼいこる
がむすめ。大輔の令嫁とて。うちまさふる嫁。わる
むどとりの兵ア(ひやうぶ)の大輔(たゆう)なるが。むすめなりけり。いと
いたう色(いろ)これめるわる人にてありけるを。恵(源)もめし
つるひなどしまふ。たゞくる(左馬のめのとこ)筑前守(ちくぜんのかみ)のめにてくだり
まけり。これ(令嫁)いちく(兵ア大輔)恵のもとをさとにて行(ゆき)かふ。こひる(大輔令嫁詞)
ちのみこのすゑにまうけて。いとじうかしづき給し
(こむすめ。落葉を忘れ未つむのすゑ)
市姫。こころぼそくてのこりぬ給ふるをことのつゐで
まかりまうしそれば。あくれ(源詞)のことやとてとひきて
まふ。心(令嫁詞)ぢへかるちなどふるきかるはえしりもべしず。
かいひ(潛)そめ。ひとうとうもてなしまへば。さべき

よひなど地ごしまてぞうたひ侍る。さんとぞなる
りしきりたひ人とおもへると罕(さこ)ゆ也(源氏)ば三川(琴詩酒之)のとも
まて。いまひと(酒と云之)くさや。うたてあらんとて。我は罕(さう)さよ。
ちく(常陸家)みこのさやうのうたは。いとよしづきてもれし
給かれど。をしなべてのまづひはあらじと
しふとうたひ給。さやう(令姉行)はさこしめすぞうりは
侍らずやあらんといへば。いたう(源氏)宇(けしき)父(しき)ばましや。こ乃
比の朧(おぼろ)月夜は志のびてもれをん。まうでよと乃
しまへば。わづらはしとおもへど。うちわたりもの
どやうなるゝ。ゝろれつれぐまもうぞぬ。ちゝ(地)の大輔(たゆふ)
のさゝは。ほうまぞすまけり。こゝは(水つむの方へ)とうさゞへぞ

かなひけり。命婦（三事ノ）ハまくとくのあたりハすこもはか
ず。ひめ君（ホツヒ）のれあたりをむつびてこゝまハくる女ハり
の（源ノ）給しもしるく。いざよひの月おかしきほどなり
おかしたり。いとかなしらいたきわざかれ。ものゝ（ね）書す
むべき夜のさ夜にも侍らざめるにとこゝゆれど。
（源ノ）なほあるまにわたりて。こゝひとこゝ思ふまゝほし
きてしよ。むなしくかへらん心弱るりるべきなどと
のまへだ。うちとけしらすこゝかにすへ（そち）なりて。う（今姫ハ）しろ
めたうかたじけなしとしへど。しんでんにまいり
たれだ。まゝかうしもされがら。梅（むめ）のかおかしきほ
こいざしてもれしまふ。よきおりかなとしひてる。れ

ことの（ね）いかままきり侍らんとせひこまへらるかく。
よろれけるひまさそそられ侍りてなん。心あはこそ
しきいでへ。えうけこまもらぬこそくちおし
かれといへ。（まつむ）あ（きこ）れ（イ）ぬる人こそ何なれ。もくしこそ
けりふ人のきくぐらりやいとて。（琴を）めしよするも。（命婦を）あい
なういかゞこそ給ふんとむまつぶる。（まつむ）ほのうまかき
なしまふおかしう（さこ）男也。（源ん）なまぐらりふるきて
なるねど。ものゝねがらのすぢことなる物なれば。（さこ）男
まくもおぼされず。（地）いとゝうあれわたりて。さび
しき所に。さばかりの人のふるめかしう。ところなく
りつきすへたりけん。名おなすくいかまおもほし

のくすことなりしん。かやうの事にこそ。芳物語（むりあがたり）
よもあれなることぐもなりそれなど。しひつ
くて。もれやいひよらましとおぼさど。うちけ
けまやおぼさんとこころもげりしくて。やすら
ひたまふ

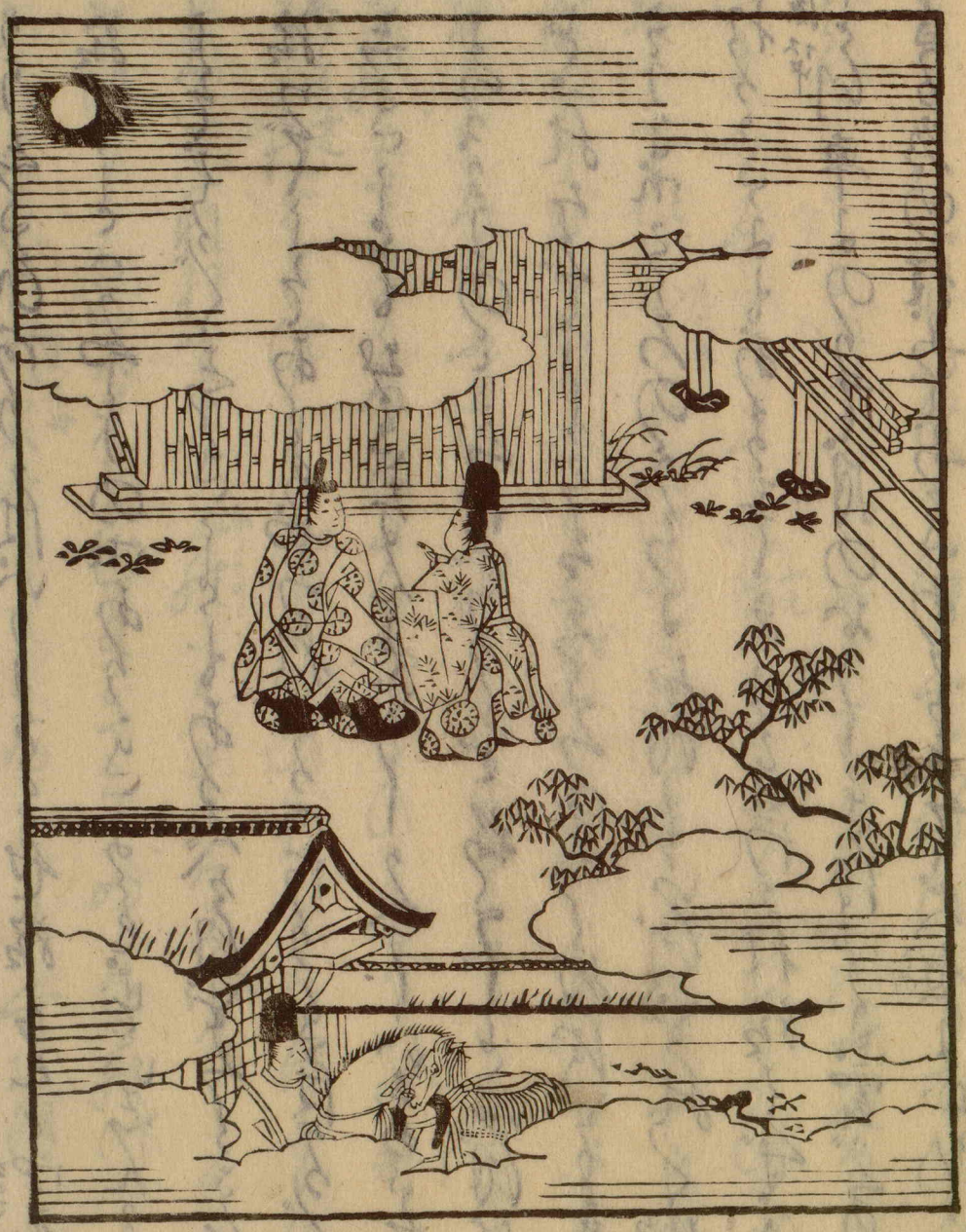


命婦などあるも此にて、いこうこくなるさせ[えまあ]なんじ
とせひかれば、[令婦詞]くもりがちに侍めり、まらうとのこんと
侍りつるいとひがれにもしそ、今心のどうにをミかうし
[まい]来りなんとて、いこうもそぐのうさぐ、かへりこれば
[添詞]なすかゝなる程にてもやミぬかれ、もれ[さて]望わく程
にもあ〻ぞ、ねこうとのまふ[けしさ]望気、[地]おかしと[おがし]こ
[添詞]ま、おなすじくいかちかさ程どれかくひこちぎてせ
させうとのまへど、[令婦ん]こころにくてとせへば、[令婦詞]いでやいと
[ありさま]りなる有様にせひこそして、こころぐるしげに
もれしこまふめるをうしろめこささ夜にやと
いへだ、[添詞]げにさもあると、[まハ]俄に我も人もうちとけて

かくふださんのこはばこそあれなげく哀(あはれ)
まおぼさるゝ人の御母なれば猶(なを)さやうのこゝろを
ほのめかしもかよひおふまゝ契(ちぎり)あさへるころやあ
らんいとゞしのびてかよひたまふ令嬢河のましんかり
おはしますとてなやみこゝちさせたまふとぞ。
おりしもふすへをゝおもく悩れけるやうのれ
やつれ姿(すがた)をいとゞでかへりのたまふぞかく
源 ればいとゞうちくりやうらうちひてごらんへのいちんやう
まことがれあらはされそこれをあぢくしくさする
まよひといへども。めの有様(ありさま)くるしかりけんとの給まへば
地 あまりにつかめいでありとおぼしそて御悩(おなやみ)のうてのあなを

まげりしとしひて。拙もいたず。志んでんのうたり。
人のけたひきくやうもやと思ひて。やをしたち
いでもふ。すいかいの。こゞすたしおれのうりたる。く
れのうたは立(たち)よりもふまもとよりしてる男(おとこ)あり
なり。誰(これ)ならん。心かけたるすきもれありなりとおぼ
して。かげにつきてたちかくれもへだ。頭中(とうの)将なり
なり。此夕つゝ。うちよりもろともまゐでもける。
やがて大夜(との)にもよらず。二葉院(でうのゐん)にもなりて。引別(ひきわれ)
もけるといづちならんとしごならで。われも引(ゆく)る
あれど。誌(あと)につきてうかゞひなり。あやしき馬(むま)に
りぎぬすがたのないがしろにてきたれば。こゝしり

ぬるぬるさすがなうことなるへおひぬれば心も
えすせひけり程ものゝねるきてつゝそゝなるよかへり
や出ぬふと思ふまゝなりなり。君は誰とも云ふわき給
ちで我と思はれじとぬきなしまあゆゑのきぬふる
さとなりてふり捨させ人なつゝきるはとてりつゝまつりつゝ
をろともなる大うち山をいでつれどいるゝ
ゑをぬいざかひの月とうゝむるものゝかれど山君
とゝのふるすゝしなりしうなりぬ人のせひよら
ぬことよとまくむく
さとわるぬかげをばえれどり月のいるさの
やまぬれかゝ河ぬる



（仲平詞）うりしるひなりがば、いかまをさせ給ふんと四九（きこ）
給。おとはいかやうのれありこさまとも。ぞいぜんから
こそ。ゆかぐしきことともあるべ。それをうらさせ
給ひでこそあらめ。やつれたるれなりきはかぐ
しきことも出きなんと。をしかへしいさめこそ
まつるかうのこゝろけらるゝを称ましとおぼせ
どかれなでしこそえるぞ。ひしらぬ。をもき
こうまれこころのうちまおぼしいづ。をれく（ちぎ）狭
わかるまもあまえてえゆきわかれ給ふず。ひ
（源仲）と河車まのりて。月のおかしきほどまに。雲がくれ
たる所の程。おしふきあるをて。大殿（との）まおりしぬ。

さきなどもおほを給はず。志のびいりて。ひと
こゑらうまれなをしめしてきうへ給。つれなう
いまゝるやうまて。れ笛（ふえ）どもふきまさひ。
おくすれば。おとゞ（左大臣）れいのきてすぐし給ぞ。ゝ面
笛とり出すへり。いとよ（ず）てりおもすれば。いと
おもしろうふきまふ。れゝと見して。うちまも
これかゝまころえゝろ人ぞまひかをまふ。中務（なかづかさ）の
きこ（菱ノ女ニ）わざとびくひけど。頭（とう）の君ころかけるを。
もてくれれて。ゝぞこれ（源ノ女）こまさうなるれ（ニ）りしきの
なけりしきをば。えそむなきてぬるをれげ
かれなくて。大宮（菱ノ母）などもよろしかるぞおぼし

なりこれが地おもらしくりこるまこうち志て
すきまじげまてよりふしたりこして三年ぬ所に
かけもなれなんもさすがに心ばそくおもひこぶれ
たり。君こちは何りつゝ琴の音をおぼし出て哀げ
ゆつゝすまゐのさ夜などもやうがへてるおかしう
志ひつゞけあらましごとにいとおかしうらうたき
人のさて年月をうさねぬこんとき。こそめて
いこじうろぐるしくは人にももてさはがな
ぐらりや。わが心もさ夜あしからんなどさへ。中将も
志ひかり。これ君のうつ宇宮ぐこ何りさ給をまさる
さてはすぐしまひてんやと。なまゐこうゝあやう

がりなり。そのうちどるまうるまうりふえなどやり
ものべしいづれもく返事(未摘ノこと)えず。おぼつかるく心や
ましさよ。あまりうたてもあるかれ。さやうなり
もまひする人ハもれさひしりたりけしさ。いうるさ
本草(きくさ)。元(そら)の気色(けしき)につけてもとりなしなどして。
心ぐきをしくらくおりくあらんこそ。哀(あはれ)なるべ
かれ。おもしとてもいとかうあまりむもれたらんハ。
心づさるくまろびたりと。中将ハまいて心いられし
なり。例(れい)のへだてさてしかくぬ心まで。しかく(以中訂)の返
事(こと)ハえなりや。心ゑまかすめたりしこそ。くしさ
なくてやえましがと。うまふれば。されば(源訂)よいひより

まけるをやとゆく思まれて。いさゝんとしもおも
ゑ。ばかや。みるとしもるしといふ人のを。人(以中ん)をさし
けるとゆふ。さゝ(源ん)はふうしも思ひぬことの。
かうなさけなさを。せさ夜ぢくしひなり給ましど。
かうこれ中ねのいひありこさけるをことおほくいひ
なれたゝんかたまぞなびかんかし。しらりがほそ。
もとれことをしひたなちたゝんかしこさそれ
りかべかれとおぼして。命婦をまめやかり
かたひ。おぼ(源河)つるくもてなれたる(れこ)なれ(しさ)
なんいと心うき。すさゞくしきかたうこぶひよを
まよまとてあしめ。さりともこうじかさこうろも

えつゝもぬ抱を人の心のおとゞやかなかことなくて
ゑもぎまのこゝろまなんどのげかしわがあやまち
まなりぬべきこゝろのどかまておやひとかれまて
あけかひうしむかもなうこゝろやすからん人は中く
なんらうしうるべきをとのぬへばいでや（余姫詞）さやうま
おかしきうるのはかさやとりまはえしまやと
つきなげまこそこし侍れひとへま抱つゝしひき
いりしかうしも侍りがたうもおしまふ人なり
なんとこゝろなりさ侍りしきしも（源ム）らうくしじう
かどめきこゝろこゝろはなきなめり（源詞）いとこゝろしう
おほとなんとてらうしくはなるべきれとおぼし

わすれぞのおふ。わらはやうよわづらひしまひ。人志
れぬものしひのまゝざれも。れ心のいと海なるさやう
まて。長夏過ぬ。秋のれほひ。志げかるおぼしつゞけ
て。かれこさぬこの者もこゝにつさて。空くかりし
さへしひしう。おぼし出るゝまゝに。ひしらのさゝ
まれしげく。空しまへど。なをおぼつるうのゝあれ
ぐよづりて心やましう。まなてはやまじ。れれころ
さへそひて。令嫌をもあまふ。いかなるやうぞ。いとな
かことこそまゝ志られと。いともれ志と思ひて
のまへに。いとおしと思ひてもてくるれてまげなさ
れしともおもむけ侍らず。こゝ大かたのれものけ

それわりなきまでとえさし出る海もぬとなん
えたまふ事と冥(きこ)ゆ程ばそれ(源詞)にそはよびぬことな
れもれおもひしなまじこさほどひとり身をえ心に
まかせぬ程にそさやうにかやうしこさもことわり
なれなまごともせひしびまりのへらんとおもふる
にそうこいとなくつれぐにころろぼそうのを
おぼゆるをおなじころにいとへのもんはねがひ
かるう心ちなんしべきなるやかやとよびけるすぢ
なしでそれあれたるすれこまたてずまくほしき
なりいとおぼつるうころえぬ心ちするをかれ
ゆかしなくともたぞかれかしこころいれしうそ

ほりもてなしまはよもあらじなどうたひ給
（余嫁人）
れよまあり人のほりさ夜を大かたなるやうにて寄
ほりめみとゞめ給くをのつきまへるをさうじく
しきよひゐなどまくられきつゐでまさり人
こそとぞらりさうしいでたりしまうくわざと
がましうのまひわたればなまわづらりしく姫君
の御三ありさ夜もまりうしくよりしめきなども
あらぬを申くなりうちひさまいとおしき
ことやうしなんとおもひ給れど さみのかく
まめやうなのまふに寄いれざらんもひがくし
うべしらみこのおりしけり折まざまふりまたる

けるりとて蓋なるひ冥ゆる人もなりけるをまして
今は淺茅わくるひとも訛しらるまうく世にめづら
しきれけるひのもり匂ひくるとばなる海女びらなども
恐ミまけてなるを冥しきまへとそぐのし生れど
あさましう抱つくしまふ心にてひたふるまん
もいれしまはぬなりけり命姫はさらばさりぬべ
かんおりに抱ごしにきてし給へん御ど れ心より
つぎはさてもやうひかし まるさるべきにてかり
にもおりしかはんとどめまふべき人なしなど
あざめきしるはやり心をうちしひてちくぎこそも
かることなどもいんざりけり 八月廿六日よひ通る

まぞ。まゐるく月の心もとなきに。月しの光ぐらり
さやけく。松の末すゑ。ふく風のをとゝろぼそくて。
いましへのことゝろ出て。うちなきなどし給。いと
よきおりかれとおもひて。れせうそこやきてつゝん。
例のいと思ひておりしたり。月やうく出て。なれ
たるまがきのほどうとましく。うちながめまゐる。
さんそぐのうれて。月のかまうきなし給ほど。
がしうはあらず。すゝしいまめきたるかをつけがや
とぞ。こゝぐれたるころは。心行なくおもひねたる。
ひとめしなき所なれば。心やすくいりまゐ。命婦を
よぶせ給。いましもおどろきがほに。いとうるはし

いたきわざかな。しかくこそおはしましたなれ。
つねよりは[ふこ][きこ]ゆふをこころよかなるぬよしと
のこそこそしすさひ侍れば。こゝげかたことりも[きこ]ゆ
しらさんとの給ひわたるなり。いかゞ[きこ]ゆしかへさむ。
なまいくのこゝろやこそ[ふ]るまひなるねば。こころ
ぐるしこそ。もれぐしまて[きこ]ゆしかりんことこそこし
めをといへば。[未摘]いとよくぐしとしひて。[詞]人りもの
こそこしむやうもしらぬをとて。おくざまへねざり
いり給さ後。いとうねくしげなり。[余姫]うちわたひ[ゐ]る。
[詞]いとわかくしうおはしますこそこころぐるしかれ。
かぎりなきへもおやのあはかひうしろこ[きこ]ゆしかふ

程(ほど)こそ。わかびのもことわりなれ。かぐらり心ぼそき
れ有信(ありさま)になん。よをつきせずおぼしたぐるは。けしき
なふこそとをしへ。男(きこ)。さすがに(まつむ)人のいふことは。
つゝうもいなびぬれ心にて。いふ(訶)へきこゝろで。こゝ
きけとあらば。かうしなどさしてもなりなんと
のゝふ。(令姉訶)そのこなどはびんなう侍なん。をしこちて。
あらしくしきれふるまひなどはよもなど。いとよく
いひなして。ふるまれきはなる。陳子(さうじ)をづからいと
つよくさして。れしとはうちをきひきつくろふ。いと(まつむ)
つくましげにおぼしこれど。うやうの人にものの
いふらん心ぐるへなども。夢(ゆめ)にも思り給はざりなれば。

命婦のうういふを、あるやうよそいとさひて抱し
あめれとゞ河おいゞ人などはざうしまいりふして
夕まぐひしらる程なり。わらさ人二三人あるは、
よるめぞられぬふれ有様をゆしきもれまおもひ
罪してこころげさうしあへり。よろしきれぜ
なりゝへつくろひ罪ゆれば、さうじこはなるのん
げそうもなくておもす。おとこはいとつきもぬれ
さ海をうちしのび。よういしこまへる。れけもひ。
いこじうなまめきて。こしらん人まこそこせぬ。
なるのもへあるまじきわたりを。あるいとおしと
命婦もおもへどこゝおほとるまもれしこまふ

をぞ。うしろやすう。さしすぐさること。にこしまり給
ちじとしひけり。けがつねをもあられまるつみさり
ごとる。心ぐるしき人のれ抱しひやいでこんなすど。
やすらぎしひねたり。恵(源ん)は人のれほどをおぼをば。
ざれくれがへる。いまやうのよしぐこよりも。こよ
をうおくゆかしとおぼしわたるに。とくうそぐの
りされて。おざりよりこまへるけれひ。思(しの)びやかる。
えびのかいとなれしうかほり出て。おほとる姫(なの)を。
されぐよとおぼさる。年(とし)比(ころ)しひわたるさ夜なすど。いと
よくのまひつゞくれど。まして(まつむ)ちらきれいしへも
こしてをし。わり(源)なれわぎやとうちなげきまふ

いく（添）そしてびこさこゝがしづまるまけぬらんも
のかいひそといはぬこのこゝ。のかひもすてゝよ
りしふまざすきくるしとのおふ。女ぎんのれめれと
こぞうとて。いとくやつまうなりつゝ人。いと心もと
なうかくらいうしとせひて。さしよりて。罕（きこ）ね
かね（小結位）つさてとぢめんことはさすがなてこゝ人
まうこさぞ。何はあやなさ。とわらびこゝろこゝの。
ことゝをもりかなしぬを人づてゝはあらぬやうは
罕（きこ）なをば。ほど（添ん）よりはあまえてとさてこゝまんど。
めづらしこさゝ。中くくちゝかゝがわざかれ
いはぬ（添）をもいふまさらとしりなぐらし

ちゆんしろくくるしかりなりなりやかやとくるれ
さことなれどおかしこささ版まもまめやかまものまへ
どゆのかひなしいとかろもさ版かへて おもふかゐ
ことまもれしまふへまやとねるくてやをらをし
あけて入たまひまかり 命婦あかうしてゆめ
まへるといとおしかれば しらずがほまて わがかたへ
いまかり これわかへどもくる世ましらぐひなかされ
有様のをとこさくまつゝゆかしこさくして おどろ
おどろしうもなげかれず ただしひもしらずまハか
まて さかれこころもあるさとぞしひけり さうしじ
しらわれまもあしずくげしく つくましこさり

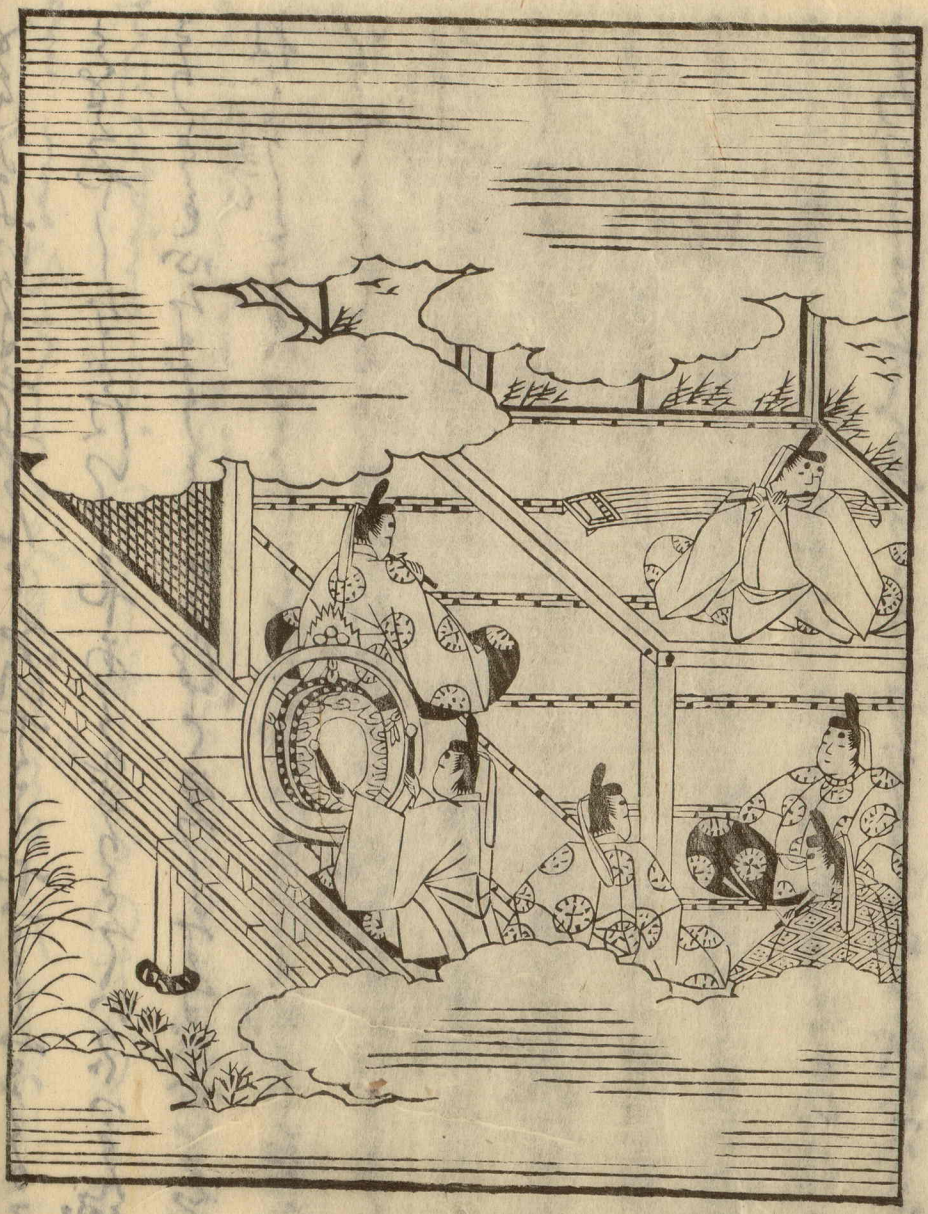
卵のことまるなければいまはかうぞ気なるかし。
まぶ世たれぬ人のうちかしづれたるとこゆるし
あふもれかしこころえずなまいとおしとおぼゆる
れさ海なりなまぶとまつけてかしこころのと
まらんうちうめられてよふかう出あぬ。命婦は
いかなるんとめさめてこさくふきりはれど志りが
はなしじとてれをくりまともこはづくしず。君も
やをし思びて出あまはり二条院におもして
うちふしあひてもなをさふるかるひがらさ世る
こそとおぼしつゞけてかるしかなしぬ人乃れ
はどはこころぐるしとぞおぼしけるせひこゞれて

おはするは。[とうのちうじやう]頭中将おもして。こよなくさはあさい
うなゆへあらんかしとこそ思ひ給へられと
いへば。[源]おさあがりまて。[詞]そろやすさひとりねの[とこ]床
まてゆるひまなり。[内裏]うちよりかとのくまへは。[以中詞]しか
まがてくべるまなり。[すさく]朱雀院[のんのぎやう]行[かう]幸ふなんがく
人まひ人きざあらるべきよしうけ給はりしを。
[たちか]おとぐまも[ゆ]さへ中さんとてなんまがて給ふ。
やがてかへり[まい]来りぬべう給ふといそがしげなれば。
[源詞]さらばもろともまとて。[れ]かゆこはいひ給して。
まらうとにもまいりまて。[ひき]引つゞけられどひとつる
[そまつ]なりて。[なを][以中詞]行いとしふこげなりとくがめ出て。うくい給

とおほりとぞうしこ罪(きこ)しまふことにもおほく
さるめしなく日まてぞ(門裏)ちまさふしひくらし給
けがしこ(未つむ)(添心)まはふこ成ぶまといとおしく覚し出て
ゆふつるぞ御りける毎ふりいでくところせくも
あるまがさやどりをんとくるおぼされぞやあり
けんがしこまはまけほど通(すぎ)て命妙もいとくおしさ
れさ海かなと心うくしひかり(未つむ)さうしじこそ御(こ)
心のうちまどけがしうおもひつゞけまて けさの
れふこのくれぬるもどうしも中くおもひつゞさる
まはざるもかり
(添)夕ぐざりのくるくかしきもまふこゝぬまいぶを

さそふるよひのあめかな。雲まくらえん得どいかな
心もとなうとなりおりしますまじきれなしきを
人ぐむつぶれておもへどなをを冥させまへや
そぐのりあへれどいとぐせひこぶれまへな得ど
まて絵がるのやうまもつぐけ給ねば東ふけぬ
とて仍涙ぞ例のとしへきて移る
それぬ東の月より星をおもひやれおれじ
心なぐめを涙ともくらぐまをめくれて紫の
うこのとしへはれぐそひをくれふるめいるは
てはさすがまもじつよう中さぐのすぢまて
うこしもひとしくいまへり。こるるひなふうち

をさまるいかるさふんとさひやるもやすしずかりて
とをろやしなどはいふもやあらんざりとていかゞいさん紙
さりとも心なぐうしてくしと思しなす此心をしら
ねばかしこまいしじうぞなげいのけるおしくゝ夜は
いりてあらぞのふるひかれなりて犬夜はおりしまし
ぬ行幸のことをけうありとおもほしてゝ公達あり
まてのまひとのくまひどもなしひ給をまた此のこと
まてもれて蓋先つねよりもみくしかりしくてかゝく
いどこつて例の此あそびなしず犬びちりさゝくちの筍
などのお目ぐ思を吹あげてゝいことをさへうらんの色は
まろがしまとてゝまづうちなしあそびおはさす



れいとまなきやうにてどちらにおぼせ取ぐらに
こそぬすまされ申へ度(あつ)ひたりにはいとおぼつかな
くて秋(あき)くれにてぬ程(をと)これこそしかひなくて色(すぎ)
行(ゆく)華(ぎやうグン)ちらくなりてしかくなどのくしなころぞ
命婦(ゆく)くしまれる(まい)いかにぞなどくひにて(添)いとおし
とハおぼしたり有(あり)程(さま)にていとかうもてこな
れたる(ミ)れ心ぞんハこまふ人さへこころぐるしく
などなきぬぐらりにしへり(添)こころにくもてなし
てやこなんとしへりしことをくらいてげるこころ
もなくこれ人のしつらんをさへおぼせ(まつひ)さうじ
これものもいとでおぼしたげれたまつらんさ後

しひやりまゐらせいとおしかれば（源討）いとまなきほど
ぞやさりなしとうちなげいまひて。まれしひしら
ぬやうなる心ざまの後。こしきんとしふぞうしとほく
思ひしまへる。かうこのしげなれば（今姫）これまうち
思まゐくこと化して。かりなれ人まうしこれまゐ
れよりひや。しひやりすくなう（三）れ心のまゐるらんも
ことしりとおまふ。（地）これれいそぎれ程すぐしてぞ
（源末つむへ）時ぐおもしける。（源）れむしさ化のゆりしぐ。とり給
ひてはそれうけくしこま心いりまて。六条（でう）かたりは（源息示）
ぐまうれまさりまふめれば。まして（末つむ）あれしるやどは
何れはおぼしをとこしぞなどし。ねうさぞかり

なりけり。前(とみ)をさき掴たちをこゝあらはさんの作(ミ)心も
ことなくて通(すぎゆく)りをうちかへし。こゝまきりを
ふやうもはりかし。紅さぐりのこどくしさる
あやしう心ぬこともあるまや。こゝてしがなとれ
もほをど。けざやかなとりなさんもまばゆし。
うちとけたるよひねのねどや(係末つむの方へ)をしいりまひて。
かうしのたぐ海よりこゝまひかりされどこ(末つむ)
げかたはこしまつべくもあらず。きてなどいたく
そこなはれたるもれかしこしへまけるたちど
かたらず。をしやりなどこゝれねど心もとなくて。
ごごち四又人ねたり。ぬぐいひそくやうのもろうし

のもれなれど人目ろきまなまのくさくひもるく
何くれげるる。まゝぞくひとぐくふずこのまづり
まぞいとさむげなる女房（ねうぼう）しろき衣（こさぬ）のいひしらず
すゝけるまさくなげなるしびしひきゆひつけ
しろこしつきうるくなしげるり。さすがよくしをし
これてさししるひたいつき。関教房（きいきうぼうないし）内侍どころの
程（かど）まゞるもれどものあるやとおりしかけてもひ
とのあたりまちうふるまふもれともしり給ひ
ざりかりおくれさもさむきとしれ。命（いのち）なすがれば
うる也ともあふもれなりかりとてうちなくも
ゆり。故家（こや）おりしまして也をなどてかくしとしひ

けんかくこれをなくてもすぐる抱成(かり)なりとてどび
こちぬべくふるふもありさ肉ぐに人わろき変(とし)
どもとうれへあへかとさく始もかたりいるれば
こちのさてこそ今おいするやうまておしこうさ
おふそぐ(まつむ内ノ人)やなどいひて史とりなをしかうしいか
ちていれなり(そまつ)侍従(ぞうい)は無院(さいかん)にまいりかよふわる人まて
はごろいなりなりいよくあやしうひなびこか
うざりまてこなりこもぬ心ちぞする。いとぐうれふ
なりつる。雪(ゆき)うさこれいとじうふりなり。雲(そら)の色(けしき)
もげしう風ふきあれて。お目とをすぐら消(きえ)になるを。
ともしつる人もなしかれ(添ん)もれ(六条院)にをそれしおり

おぼし出られてあはれなる夜かなとくちずさめたるは・
ほどのきざうじ人げのすこしはなやぎなどさめ
されど・ずゞろにて・いざときゝちすゞしみさ夜
なり・おかしうもあはれにもやうぐへて心とまりぬ
べきはり夜をうとむもれすぐよろこぞのゝへ
なきさとぞ・口おしうおぼそからうきて明めつ氣
色なれば・かうしあげてあけはてゝまへの前栽の
雪ところのふかくはけうる跡もなく・ぞろかぐくとあれ
・わたりていふこゞうさびしげなるふり出てゆうん
ことのはそれはて・おかしきほどのそらもこしまへ・
つきをめ(え)ろうのへぶそしそわりなれとぶしも

なさけしらずのおもひではのがれがたし。ゆるされ光(ひろ)はやどく
こゝろしなりけりこしかたを。老(おい)人ぐまゐることえて
こゝろざし源氏やむさせしまへあぢきなし。心うけて
なさしそておすゞそへ宮(きさ)ゆれば。まろすまへのなそゆる
こゝろえいそひのちめ(三)ころまでどうりつ
ろひてねざり出すへり。源(げん)ぬやうすてどのうさを
おうぎめすへれども。かうめいしでおすずいうまぞうち
とけまさりのいさくうもあらぶれしりうんとお
ばせても。おかぐらなすなるなすりや。まげねがけの
さうりをせなすがはらしまみま。されどもね
つれめぢらつぶてあかうこわやこゆかまれ

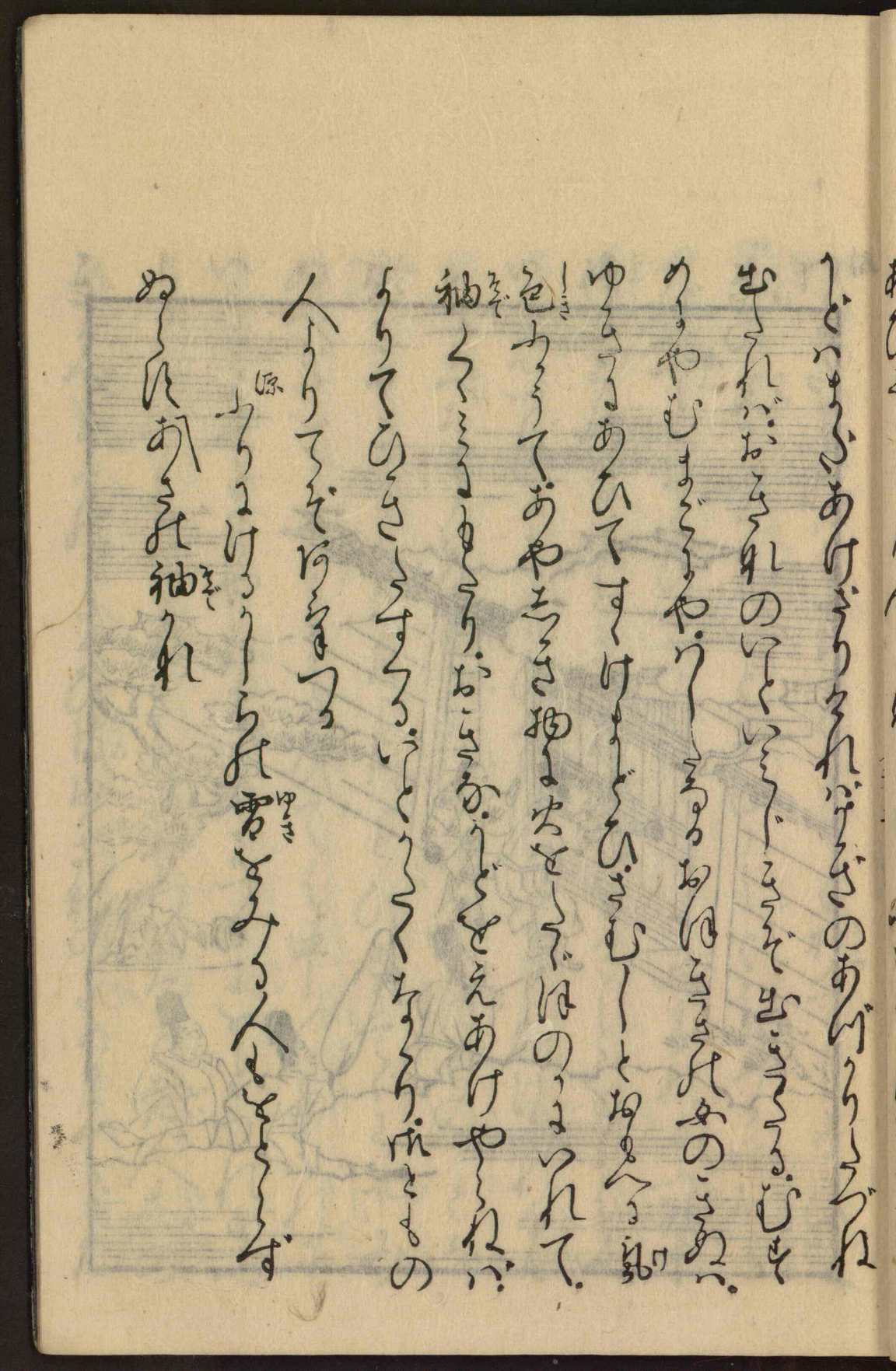
それ奴(ちか)なり。ふとめぞとまり。普賢菩薩(ふぐんぼさつ)のくりものと
おぼ程。つきましうこうのびらかに。さきれかる
すうしこりて。色(いろ)づきたる。実(ごと)のほかにうこそ
ほり。いろはゆきとけがしくしろうて。さとに。ひこ
つきことにたうそれこるに。たすをしまがちるかお
もやうは。大かるにおどろくしくなすがきぬべし。やを
かへることいとおしげにさしぼひて。かるのわど
なぞは。いたげなるまで。さぬのうへまでこ程。なお
のくりなうこあらひしつくんとせふ抱かしめづら
しきさ夜の志られぞ。さすがに打(うち)こやられこまふ。
りしらつき。かこのくりはしも。うけくしげまで。

みぞてしとせひきゝゆり人ごとにも。おさくをとる
まじう。こゝちこれすそ。ましまりてひかれしる程
一尺ばかりあまりしたんとこゝ。さゐへ。なれ。を
さへ。いひこゝるも。ものいひさゞるまきやうなれど。
すこし。把鏡にも。人のはさうぞくをこそはまづいひ
こゝあれ。ゆましいろのまりなう。うつじらこゝるひと
うきね。名物なうしろきうちきうきねて。うはぎは。
くふるきれはぎぬ。いときよらにかうだしきを
きゐへり。こゞいのゆへづきしるはさうぞくなれど。
なをわるやうなるものはよそひにはまげなう。
おどろく。しきしと。いともてもやされしるされど

げにこれらはなりてしさむりしまへしとみゆる
れうかざ御なりとこころぐるしとこそのおほせなれども
御ふれ給ふず。かれさへらちとちうからちまちのへど。
例のまづままこころえとやうりこころしまつる。
いそうちぢしひてくちおほいしのへるさへびゐび
ゐゐあしう。こしくまつくださしき宮のねり出る
ひまちまちおほしてさすがまうちゐそのへるそし
あさうしるまろびかうりとおしくあされま
て。いふびいそぎ出すえ。涼しかりしこえへちるさ有様を。
ふきあかるへははうとらず。おまひむつび給ひん
まそ。さはいあのこちすべかられ。ゆゑしなるとれらう

なれば、つれなきことゝつけゝる
（源）あさ日さすのきのたるひはとけながらなどか
つらゝのむすぼゝるらんとのたまへど、たゞむゝとう
ちわらひて、いとくちをもげなるもいとおしければ、（源）出
給ひぬ。御車（くるま）よせたる中門（ちうもん）のいといたうゆがみ
よろぼひて、よめにこそしるきながらもよろづかくろ
へたることおほかりけれ、いと荒（あれ）まさびしう、一かれ
まどへるに、松の雪（ゆき）のみあたゝかげにふりつめる山
里（ざと）の心ちして、哀（あはれ）なるを、かの人々のいひしむぐ
らのかどはかやうなる所（ところ）なりけんかし、げに心ぐるしく
らうたげならん人をこゝにすゑて、うしろめたう

しひしとしはぐや。ほうまじきもれしひはそれは
まぐれなんしとしふやうなりすこうはあらぬ
此(三)有様(ありさま)はとるべきうなしとしひながら。乱(れ)ならぬ
ひとは。ましてこしのびてんや。わがかうこそれけ
なはちくみこのうしろめたしとこぐへとき給
けん。こましぬのしるべなありとぞおぼさる
こちぐれの末のうげもれこる。こずいぞん然して
たしいをこまふぐらやこがれは松の末のとのれ
おきかへりてざとこぼるゝ雪(ゆき)もなまこけす思乃
とこゆりなどをいとふるゝ寸(とし)たるぐらかるる行(ひど)は
あひしらたん人もがれとこまふ。此(三)ゐる海いげべき



しどいまぶあけざりそれはけざのあげうりしづね
出さればおこされのいといとしこそ出さるむせ
めるやむまどるやうしこるおほさされ女のこさぬは
ゆきるあひてすけまどひさむしとおもへる乱
色(しき)かうてあやしさ掬る火をしてほのうまいれて
袖(そで)くこるもしりおこさかうどをえあけやしれば
よりてひさしすくるいとうしくなりぬとものの
人よりてぞ何事つる
原 かりまけるうしられ雪(ゆき)をみる人もととしず
ぬしはあきれ袖(そで)かれ

わるきもれハうちうくさずと打すじまひて
墓の文はいづれ、いとさむしとこしつるれおも
かげふとおもひいでられて、ほく急まれまふ。就中
将はこれをこそとこそん時、いかるることをよそへ
いたんつねはうかびくれば、いまこけけれなん
とすべなうおぼせ、られつねなるほどのことな
なこかしなきなる程ぞ、たゞひとてくもやみ
ぬべきを、さゞかはこまひてく、中しくあられは
いうじくてまゐやかなるさ殿はつゐはをとづれまふ。
ふるされかもなるぬさぬ、おやわるなど老人れの
さるべきもれくこゞひ、皮おされのるめまで、かん

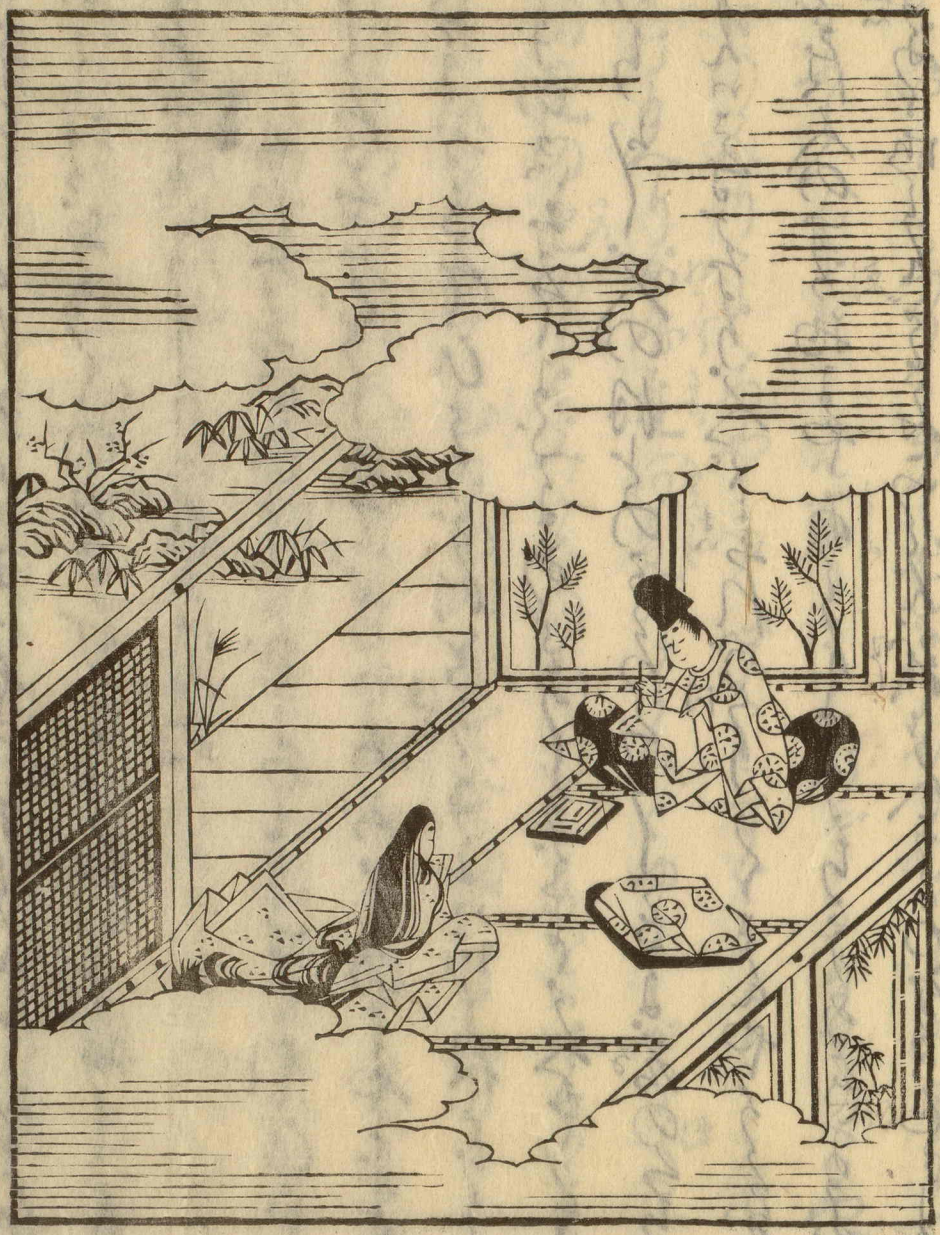
志をばしやりてじてまつり給ふやうのまゝやう
ことゞもげにしげすゝめど心やすくぞさふらふ乃
うしろにまそてそゞでもんとおもひしさうて座
ことゞまさそすゝめうちとけわざもし給ひそりうれ室
蝉のうちとけしうりしよそひのそばめどもころ
かりしうちざ庭なすれどもまてなうしまうしき
されてぐちおしういあつざりこさうし。そこうべ
こさほどの人なりやいげにもしれにもめぬ給ざ娘
かり心だちをれなうぐうまぜめげなりしあげて
やうへうれと猫のおりごとまへ覚しいげとしも
くれめ酒のはれとれお帯にさうしおすま。大禰の

今姫(ミヤウ)無(まい)れり。れけづりぐしなどまいれけさうぶ
すぢなう心やすきものゝさすがのかひこゝろ
などしてつゝひなしまへれがぬしなきときも
きしゆべきことあるありはまうのありなり。あやし(今姫詞)
きこしの詩をきゝしさせざらんもひがくしうさひ
こまへまづひてとほく思ひて罪(きこ)しやらぬをなる(添詞)
ざ海のことぞ。我(見れ)にはつゝむことあらじとなん思ふと
のまへいづりぐ(今姫詞)もこゝげからのうれへもうしろくとも。
まづしそはこれもいときゝしさせにくくなんとい
こうことゝあれば。れいの(添詞)えんなるとにくこ
まふがれこや(今姫 末つむ)より侍るれふことてとるもいぞしうり。

まして（添詞）これはとりかくすべきことなはとてぞり
おふも胸（令嫁むね）つぶるこちのくまがこれあれごとしるる。
自（まか）ひぐらりはふうしまんまへり。いとようかきおほ
えたり。哥（うた）も
（末摘）かし衣（しゃく）きみが心のつれなれば殺（すて）はかく。そくほち
つのこ（添）ころえずうちかるふきまへるる。（令嫁）いしるる
ころもぐこれをもりかる。こぐいなるうちをきて
をし出たり。（詞）これをいかでなはかるはしいたく思ひ
まへざらん。されどつくるちのれよそひとて。わざと
侍めるをけしたるうはえかへし侍しず。ひとりひる
こめ侍らんも。人の（注）心をかひ侍べ。かれぞ。ぬらんぜ

さきてこそこそとさきてゆれば引(ひき)こめられなんハから
りなまし。袖まきほさんひともなき身ハいと
うれしき心ざしまこそハとのまひて。ことまもの
いとれしまいず。さて(原ハ)もあきましのくちつきや。これ
こそハまづらのはことれかぎりなめれ。侍従(ぎぐう)こそ
とりなをすべかめれ。まるふでの志りとるとうせぞ
なるべきといふかひなくおぼす。ふるをはくして
ことに出のへらんほどをおぼすよ。いと(羽)もうしこそさ
うことハこれをもいふべかりかりと。ほく思ふてる
ことを。命妙おもてあるこそ。こまる(えまう)。いまやう色(いろ)の
えゆるすまじく。つやなうふるあきこるなをしの

うくうへひとしほこ夜やうそすゝけとなま夜くし
うつまぐれこしこるあゝましとおぼさうき
けふこそひろげそゞろしまぞそすゝひすゝひ
おんをぶ(令)ばめまされぞ
(涼)たまかはしき気(名)ともなしはなまこの床(風恵)つむ
これや袖(そで)にふれけんぶろこさきみしこしど
もなどうさうかじしまふ



余姉心
それのとがめ候なをあるやうあらんとおもひ
あんすゝおりくの月かげなど候いとおしさ
もれうらおうしうしひなりぬ
余姉
それなるのひとくかごろもうすくもひ
すらくすなをしそゞいころぐるしのよやとゞ
いこうなきてひとりごけをよきまはいけねどうう
やうのかいなてまゞまあらましかぞとうへてく
くらおし人のほどのころぐるしさまなのくら
なんはさすがなり人ぐ氣れば汚りくさんやうるか
わざは人のすゝ抱まやあらんとうちうめさまふ
余姉心
なまかくはらんどさせつらん我さへこころなきやこし

まとゐとまづしくてやとらおりぬ。まるの日うへ
まさゆくへぐ。ふいたん所まさしのぞきまてぐ。
昨日のくりことあやまつく心ぐらしすぐさるくとて。
なげかへり。女房達何事なるんとゆしがる。
梅の花の色のごとみかきの山のをとめをいすてと。
うらひすさひて出るひぬるを。命婦いとおかしと
さふごろしらぬ人ぐいなすぞ。此独ゐるとやうがん
あへりおらずさむき霜あさるがいねりこれめる
菜の色あひやうしつらん。此つぐしりうるのいやく
おかしきといへば。おかがちなるれことかれこれな
かまは。まゐへる菜もなるあり。左衛の命婦ひごし

のうひめやまごらひつらんなど心もえすいひし
ろふ御(令嬢)りつりこそまつりこれぞこ(末つむ)やまは女ぐら
つどひてるこゝめでなり
(係)
何らぬよ成るぐつる中のころもでまうさね
ていとぐこもしこまとや志ろきうこるすてかい
まへる志もぞ中しくおうしげるる。ほぐもりの日
ゆふつる。かれ御衣(ころも)ぐこまは御れうとて人の生(まつ)
れる御ぞひ(一具)とぐえびぞめれとりものくれぞ。
又やまぶきかなまぞいろくこして。令嬢ぞ生(そだ)り
ろ。何りし色(いろ)あひとわろしとやこまひかんと。
さひ志られどかれたる。これなゐのおもくし

かりしをやさりともさてしじとねびんをもちぐ
ひろ。ぬうゑもこれよりのしとゝかり冥(さこ)てぢつる
まこそあれ。ぬかんりはしらぐおしこゝろまこゝ世
をすぐ。ろちぐまいふ。ひめ(まつむ)ぎもおぼろけなしそ
志いでゐんるわざなれば。ものまうさつけて。並(とこ)のんり
なり。ついるちのほどすぐさて。ことしおとこぐうる
けるべなれば。例(れい)のところぐあそびのしきり洛に
抽さはがしなれど。さびしき。(涼ん)前(とろ)のあれにおぼし
やしなれば。なぬかの日のをちゑもてく。夜にいりて
ぬぎんよりまうでゐひけるを。ぬとの升ぎしろに
やがてとまりゐぬるやうまてよふりしておもし

さり御のかりさ殿よりはけさひとちらるさめかさて。
まげいろり君もするしこそやどさる人る。氣色もなくて
つきのんり、いるまぞあかしてびさ人こんばとぞ
おぼしつげける日さしいげるほどよやすらひ
みしてうぞしまふびんぎしのつまどをしかけ
これぞむっひさらうのうへまるくおぼれされば、
ひのかしほどみすくさし入て。ゆらみすらしかりる
ひかりる。いとけざやうるこれらのばるるしなぎ
まさ氏こいぶ君そずらしさしいぞてうるからか
こまへるうしらうきこほれいぞてしる村。いやしめて
うしおひるぞりとこいぞてこんとます。堪有れて。

かうしひさあけまへり。いとおかしかりしもの
こりまゐぎもちてしまもで。けうそくとしよ
とて。うちかけてれびんぐさのしぎけるさをつく
ろひ給わりなうふるめさる。さやうぐいのうしく
げ。かげのもこなどとりいでしり。さすがまおとこの
れぎさんほのぐあるひざれておかしとこゝまふ。
のさうぞくはふはすげさしりとゝゆるはかりし
もこのころぐんもされがしなりかり。さもお
ぼしよらず。けうあるもんつきて。しるさうはぎ
ぐりぞおやしとはおぼしけること（源行）しよこゝ
すうしさきをまへし。まるまく地はさしまれて。

れ（もけ）まゐ（しき）のあるこまゐんなんゆしこそとのまへば
さえづる（来つむ訓）（えら）はとうらうしてわなくうし出たり
さりや（源訓）としへぬるしよとうちわらひまひて爰
りとぞ思ふとうちすじていでまふを（来つむ）こゝをくりて
そひかしこ海原りくちおほひのそぞあより（なを）れ
れ（まゐ）来つむされいとまほひやうまさしいでたり
ぐるしのわぎやとおぼさる二条（てう）の院（ゐん）におはし
これば（むらさき）紫の（さゝ）ゐいともうけくしきるおひまてくれ
なるはかうなけしこそもなりかりとこゆるり
むもんのさくらのほそなるがなまくうまこるして
なる心もるくてもれしまさ海いこじうらうしし

そぶいのをばぶの御名ゐまてもぐろめもちぶし
りけるをひきつくろもせまゐれがまゐのけざや
かまたりたるもうけらしうさまらなりそろうら
なまどかううきよ成ミあけかふんかくそろぐ
しさもれともこでゐたぐとなほしつ御の
もろともまひゐるあそびし給紫なまどうきて父
どり給よろけまかしうすきひちし給ひり我も
かきそへたまふかゝいとながきゆをかきたまひて
くれまべをつけてこゐふまうたまうきてもこ海
うきさまりしたりけがれかげのきやうぶいまうけ
れかがいとさまらなるをこゐてまづうけあがな

をうきつけまかりてこのまゝ。うくようきの間
ごとに。さてまじれらんにこぐるしうるべかるもかるを
姫(ひめごこ)君(紫)こそ。いこじくわらひ。まゐ(添詞)ろがかくうるまる
故(おり)なん。いかなるらんとのまへぞ。うこそ(紫詞)こそ。何らめ
とて。さもやしこつむとあやうくさひまへり。電(添)
のごひをして。さしまこそしろまゐ。ようなきすさ
ひわさなりや。内(清)にいるの給りんとすらんと。いとまめ
やかなのまふを。いとく(紫)おしとおぼしてよりて
のごひまへぞ。べいぢうがやうに。気(いろ)どりそへまか。
何らんにあへなんとしたれまさ海。いと(地)おら
しきいまととこしまへり。日れいとうらくかるるに。

（三十四終）

いけしうとみすゝわたれる梅（ニゴ）どもの心もとなき
中にも梅（ひめ）にかしきぐゝ風ゝ思ゝわたれるとり
わきてこゝもとしがくしのもとの紅梅（こうだい）いとゞ
くさく茎（えな）までいろづきまかり
（添）これなるのこれぞあやなくうとまるゝ梅（むめ）
の立枝（きえ）はなけりしかれどいぞやとあいなくうち
うめられまふ（地）がらなひとゞくのすゑゞくいりな
まけ歌

69038
6AP78